ふるさとの風土で育む人づくり・まちづくり





発行責任者:栃木市教育委員会

委員長 後藤 正人

住所:栃木市万町 9-25 : 0282-21-2461 0282 - 21 - 2689FAX: Email: kyoumu@city.tochigi.lg.jp

> ヒー 口

正

前述の梶田隆章氏は、

であり、最強のヒーローであるということです。ところで、 きることです。共通していることは、どちらも正義の味方 ファンは、自らが操縦者となって、悪を退治することが

幼少の頃、鉄腕アトムの大ファンだ

誰にも操縦されず自由であること。一方、鉄人28号

大の言い分は、自分の感情をもって正

う遠くではないということが分かります。大きな夢であれ、科学の急速な進歩に接していると、宇宙旅行の実現もそ 明らかになっていくのです。 ると信じ、努力し続けることによって夢への道筋が徐々に めていては夢の可能性が芽生えることはありません。でき に思われてしまいます。しかし、無理だからと最初から 諦

に役立つ研究をしたいと考えていたとのことです。

をもっている中で、梶田氏は、"お茶の水博士"に強い ったそうです。しかし、誰もが鉄腕アトムそのものに興味

大きくなったら、お茶の水博士のように世のため

をもち、

17

で組み立てられている現代物理学の見直しを迫り、宇宙形ニュートリノに質量があるという発見は、質量ゼロの前提沸きました。物質を構成する基礎粒子である「素粒子」のき、ノーベル物理学賞に梶田隆章博士が受賞され日本中が10月6日には、ノーベル生理学医学賞の大村智博士に続 10月6日には、ノーベル生理学医学賞の大村習専士こ売きたという人類史上初の快挙に世界中が驚きました。また、 から高く評価されました。成と生命の誕生の謎を解く上で大きな成果であると世界中 最接近し、鮮明な映像や貴重なデータを次々と送り込んで 昨年7月14日に探査機ニュー ホライズンズが冥王星に

いました。現在、日本科学未来館では、異なる環境に合わ車に乗ったりできるロボットたちに大きな歓声が上がって ロボットが二本の足で立ち、階段を上手に昇降したり、音れたロボット博に出掛けたことがあります。連日大盛況で、 年雑誌を読んでいた頃を思い出します。当時は、半々の 楽に合わせてダンスを踊ったり、握手をしたり、また自転 合でファンが分かれていたように記憶しています。 た新型ロボットが開発されているそうです。 せて自由自在に動きを変えることのできる人工頭脳をもっ 今から17年位前に横浜の" 口 ボットと言うと、私の頭に浮かぶのが「鉄腕アトム」(手 「鉄人28号」(横山光輝)です。 みなと未来21地区" 夢中になって少 で開催さ

鉄腕アトムと鉄 人28号~

とに、どれもが今日的な喫緊の社会問題になっていること と「想像力」そして、 学校でのいじめ等々の諸問題を扱っているのです。 語や、人種差別・地球汚染や海洋汚染・火星探査、そして、 5の速さで空を飛んだりしながら、人間を恐怖に陥れる物 に想定した漫画であることに驚かされます。 してしまいます。 です。改めて、手塚治虫氏や横山光輝氏の「正義」と「愛 トーリーには、鉄腕アトムが自由に歩き回ったり、マッハ 年 4月7日に生まれる予定のロボットを今から65年も前 台にしたSFヒーロー漫画です。なんと2003(平成 本市教育委員会では、 年間「少年」(光文社)に連載された21世紀の未来を舞 「鉄腕アトム」は、昭和26年に誕生し、昭和43 何よりも 子どもたちがそれぞれに抱 「先見性」の見事さに感動 発行当時のス 年までの いた夢 15

ます。ここ栃木市からノ 実を地域・家庭・学校が実現できる教育環境の充 ーベル賞受賞者が出るの ていく取り組みをしてい をしっかりと受け止め、 一体となって、創りあげ ではないと思います。

夢は大きく、実行は足元

栃木市教育祭が開催されました



栃木市の教育に対する意識の高揚と教育の気運を高めることを目的 として、11月14日から16日までの3日間、栃木市文化会館にお いて「栃木市教育祭」が開催されました。

作品展では、栃木市内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒による絵画、書道の作品展示をはじめ、広島平和記念式典中学生派遣活動の報告展示、市内幼稚園、保育園、小、中、高等学校、

あいさつをする後藤委員長

特別支援学校、國學 院短期大学の紹介

パネル展示等が行われました。

式典では、善行功労児童生徒や社会教育功労者、社会体育功労者等に対しての表彰が行われ、引き続き、記念アトラクションとして岩舟円仁合唱団と「吾一」市民合唱団による「歌い継がれる栃木市の偉人たち」の合唱が行われ、素晴らしい歌声がホールに響き渡りました。



とぴっくす (第2回栃木市総合教育会議が開催されました)

「総合教育会議」は市長と教育委員会が、本市教育の課題やあるべき姿を共有し相互に連携を図りながら効果的に教育行政を推進していくため、今年度設置されました。

今回の会議では、主に全国の学校で少しずつ取組が広がっている「学校運営協議会制度」について協議がなされました。

「学校運営協議会制度(コミュニティースクール)」について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、教育委員会が指定する学校の運営に関して協議する機関として、各小中学校に「学校運営協議会」を置くことができるとされており、「学校運営協議会」を設置している学校が、一般に「コミュニティースクール」と呼ばれています。

「学校運営協議会」の制度は、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に 意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学 校づくり」を進める仕組みです。

栃木市では、地域ぐるみで子どもを育てる教育システムである「とちぎ未来アシストネット」が展開されており、さらに充実させる制度として期待されます。また、「学校

開されており、さらに允美させる制度として期待されます。また、「字校 運営協議会」とアシストネットが協働することにより、地域の中学校区 ごとに地域で育てたい児童生徒像の共有や地域の教育課題の共有、解決 が図られる小中一貫の取組につながることが期待されます。

教育委員会では今後「学校運営協議会」について研究してまいります。



※定例教育委員会は、公開を原則としており、市ホームページや"広報とちぎ"で、日程をお知らせ しています。一度見学してみませんか。なお、議案・報告事項によって(人事に関することや、個 人に関する情報等)は、非公開となる場合があります。 第6号(3) 2016. 3.1

教育委員の声!!



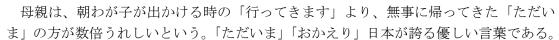
筑比地幸子委員

昨年9月に、記録的な豪雨のため市内の小学校に被害がありました。関係団体・地域 は勿論、遠方より駆けつけてくださったボランティアの皆さんの力もあり、予定より早 く片付け作業ができました。心より感謝申し上げます。

被災した児童は突然の環境の変化にもかかわらず、新しい学校生活を笑顔で送っていたというお話も聞きました。子どもの内在した逞しさを感じ頼もしく思ったものです。

トマトは水を制限されることでより甘い実を付けるとか…。栃木の子どもたち、もっともっと大きく育ってほしい。

ある映画の女優の台詞「おうちに帰ろうよ、一緒に帰ろうよ」にぐっときた。どんな人にとっても、特に親しか頼れる人がいない子どもたちにとっては、「おうち」は唯一の帰りたい場所である。家族がいて、笑顔があり、安らぎと睡眠を与えられ、心も体もゆったりとくつろげる空間。それがあってはじめて子どもたちは元気になれる。





福島鉄典委員



若林由美子委員

栃木市教育委員会研究指定校公開授業が、9月から12月までに13回開催されました。授業内容は様々ですが、外国語教育実践、道徳教育推進、学力向上推進などです。「どのような授業が子どもたちの積極性を引き出せるか。」「どのような授業が理解しやすいか。」など様々な事を、先生方同士で意見交換をしながら、本当に細かい所まで研究されています。この努力は必ず子どもたちに変化を与えてくれるでしょう。

アフリカに『子ども一人を育てるには、村中の大人の知恵と力が必要である。』という古いことわざがあるそうです。日本でも昔は大家族や地域共同体があり、子どものまわりにはたくさんの大人がいて、さまざまな形で子育てにかかわっていました。地域社会とのかかわりが希薄になった今、子育て中のほとんどの人が地域の支えが重要だと思っています。

子育ては家族と社会の大切な仕事です。子育てが終わった私たち世代も地域の一員 として、子育てにかかわっていく必要があるようです。



荒川律委員



林慶仁委員

赤いかぶりものの下、ギョロリと彼方を睨むヒゲ老人の顔の代わりに、同じかぶり ものを支えながら、やせ細ったうりざね顔の女性という、この絵は一体何だ。

九年間座り続ける仏道苦行と、折れてしまうような一筆線で描かれた女性のお勤め十年とを、同じ忍辱行とするのは是か。芸術とは概して、人物の足裏の白さまで見通さなければ深奥に到達できないのに、教育的にする説明はどうか。・・などなど。

とりとめもなく、栃木蔵の街美術館、歌麿展『女だるま』の前で妄想しました。

第6号(4) 2016. 3.1

栃木市の教育の方向

栃木市教育計画(6)

高校生が地域の大人とともに活躍する街を目指して ~まちづくり活動を通して地域を学ぶ~

栃木市内に在住、在学するボランティアやまちづくりに関心のある高校生が気軽に集い、高校生の視点による自主的な活動を展開し、栃木市の賑わいの創出を目的に 平成26年4月に「とちぎ高校生蔵部」が設立されました。



栃木と東北の高校生が企画開発に関わった 商品を PR するイベントを開催



大人と連携し、「市の魅力を PR する」 CM づくりに取組む高校

高校生が主体的に栃木市のまちづくりに参画し、今まで知ることのなかった市の魅力を自ら発見し、また、学ぶことにより郷土愛も芽生え、地域の大人たちともコミュニケーションをとりながら活動しています。この活動は、子ども×高校生×大人との多世代間交流も育まれ賑わいのある街への一翼を担っています。

教育長のひとこと

栃木市定例校長会(10月)での話から(抜粋)

この度、本市を直撃した「台風18号に伴う大雨=関東・東北豪雨」では、 特に4校(吹上小、栃木中央小、とちぎ第三小、部屋小)で「床上浸水や土 砂流入」などの大きな被害を受けた。

その被害の最も激しかった部屋小は9月15日から藤岡第二中を間借りして授業を再開したが、9月20日にはPTAや地域ボランティアの方々、消防団そして市内教職員の皆様にお集まりいただき、浸水(水没)した校舎、体育館校庭の片付けや消毒などの復旧作業にご尽力をいただいた。とても有り難く、とても心強く思った。

今後とも、被災した各校の復旧を早急に進めていくが、部屋小においては 10月中旬を目途に本校舎2~3階を使用しての'暫定的な授業再開'に漕ぎ着けたい。今しばらく のご辛抱をお願いします。(注:11月16日から部屋小で授業を再開しています)

「雨降って地固まる」と言われる。今回、豪雨災害を身近に体験して、'いざ'という時、如何に'いのち'を守るか。その為にどう行動し、どう助け合うか、日頃からどう備えるか…など、将来を見据え、**災害と向き合う能力・態度**を子どもたちが主体的に身に付ける防災教育の今がその絶好のチャンスと思う。よろしくご指導をよろしくお願いします。

教育長 赤堀 明弘

【編集後記】

"教育委員会だより 絆"の発行により、市民の皆様に教育委員会の役割や活動内容をお知らせし、いっそうの開かれた教育委員会を目指します。

※ご意見・ご感想はこちらまでお寄せください。

栃木市教育委員会教育総務課 〒328-8686 栃木市万町9-25 電話: 0282-21-2461 FAX: 0282-21-2689 Email: kyoumu@city.tochigi.lg.jp